

受講番号 18005 学校名 安芸高等学校 氏名 黒石 恵美

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 36名
 科目名 総合英語 単位数(授業時数) 5時間 使用教科書名 スプリーム英語構文109

クラスの様子・特徴

習熟度の高い理系のクラスであるが、クラスの中でも大きな差がある。真面目で音読や提出物等に関しての取り組みも良いが、英語に関して苦手意識を持っている生徒が多い。特に長文読解に苦手意識を持っており、難しい読解になると意欲をなくすものも見られる。

問題の確定

長文読解に積極的に取り組むことで、理解できた喜びや達成感を感じさせ、長文読解や英語に対しての苦手意識をなくしたい。

予備調査

A 授業の観察

ほとんどの生徒が予習をせずに授業に臨んでおり、わからない単語・熟語・構文も多く、読解に積極的に取り組めていない生徒も数人見られる。

B 生徒による授業評価

板書や説明や質問の仕方には好意的な意見が多いが、進度に関しては早いという意見と遅いという意見が半数に分かれた。予習なしの生徒が半数を越え、語彙に関して授業前に知っていた生徒は一部で、3分の1の生徒が読解に意欲的に取り組めなかったようである。

C 学力データ

4月に実施した語彙サイズテストではクラス平均が2689語で最高が3333語で最低が2067語であった。4月に実施したベネッセの模試(去年2年生1月受験)ではクラス平均が67.9点で最高が130点最低が29点であった。

リサーチ・クエスチョン

生徒の弱点(読解力)を強化し苦手意識をなくすための工夫

仮説・実践・検証

仮説1

単語テストや音読を繰り返し行うことにより、語彙や構文を定着させれば、長文読解にも取り組みやすくなるだろう。

実践1

単語・熟語テストを週一回定期的に行い、長文読解のテキストの単語テストも定期的に行った。(単語テストは一定のレベルにまで達するまで再テストを行った。)基本構文をペアワーク・全体練習などで音読を行い、既習の構文を使って簡単な自己表現する活動をした。新出単語の読みや意味を確認し(時折単語をパラフレーズするなどして英語のインプットを増やした)読解後、本文の音読を行なった後、リスニングを行い定着を図った。

検証1

4月の語彙サイズテストではクラス平均が2689語、最高が3333語、最低が2067語であったが、11月にはクラス平均が2911語、最高が3600語、最低が2474語であり、わずかではあるが、大半の生徒が語彙力が向上した。音読の効果は検証が難しいが、単語テストを定期的に行ったことは効果があったのではないかと、授業で行った模試の平均点は67.9点(4月)から81.6点(12月)になった。

仮説2

フレーズリーディングの基本を教え、全訳や細部の文法にこだわらず大意をつかませれば読解のスピードも上がるのではないかと。

実践2

長文読解の苦手な生徒に対してはフレーズごとに切って提示したり、自分で切らせたりしてフレーズごとの意味をとった後、大意をつかませた。授業中には訳の細部にこだわらず構文や大意をつかむような指導を行い、後で日本語訳を渡した。また、普段使用の教材より難易度が低く英文の量が多い長文を週に一度使用し、大意をつかみながら練習を重ねることにより読解のスピードをあげた。

検証2

この仮説は検証が難しいが、アンケートの結果では長文読解に慣れて楽しくなったという意見も多く見られたので長文に対する苦手意識は少しは減ったのではないだろうか。構文を理解できた生徒も4月は24人だったが10月には28人であった。また授業観察からも、英文の量が多い長文に対して積極的に取り組んでいる生徒は多くなったようだ。しかし、フレーズリーディングがどれくらい効果があるかに関してはなかなか検証が難しい。

仮説3

予習の徹底(辞書を使う)することによって英文を読ませ、難解な語句の意味や大意をつかませておけば授業にも積極的に取り組めるのではないかと。

実践3

予習の状況を定期的に確認し、それぞれの理解の状況をつかみながらノートを点検し指導した。(どのような予習をしているのか、どこでつまづいているのか、読解後内容をうまくまとめられているのかなどを確認した)

検証3

4月に予習ができた生徒は13人だったが10月には24人になった。ノート点検などで学習状況を確認し指導することは効果があったと思う。また、4月より英語が好きになったと答えた生徒が19人とクラスの半数を超え、「予習をすることで楽しいとわかった。英語に触れる機会が増えたから。」という回答もあり、予習に対して細かく指導をしたり、英語に多く触れさせることはとても大切なことだと思った。

研究の成果

4月に実施した語彙サイズテストではクラス平均が2689語で最高が3333語で最低が2067語であったが11月に実施した語彙サイズテストではクラス平均が2911語で最高が3600語で最低が2474語であり、わずかずつではあるがほとんどの生徒が語彙力が向上していた。4月に授業の予習ができた生徒は13人だったが10月末には24人ができたと回答した。また4月より英語が好きになったと答えた生徒が19人とクラスの半数を超えた。アンケート等では検証できないことも多いが、少しずつではあるが英語に対しての苦手意識が減っているのではないだろうか。

今後の授業改善の課題

長文読解中心の授業を行ってきたため会話などのコミュニケーションに対しての苦手意識を持ったままの生徒が多い。うまくコミュニケーション的活動を補った授業を行えばよいと思う。また、授業の進度に対する意見もいまだ早いという意見と遅いという意見が半数に分かれている。レベルの違う生徒に対しての対応や教材の与え方などをもっと改善していかなければいけないだろう。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0887-34-1145

電子メール

emi_kuroishi@kt2.kochinet.ed.jp